

NETWORK

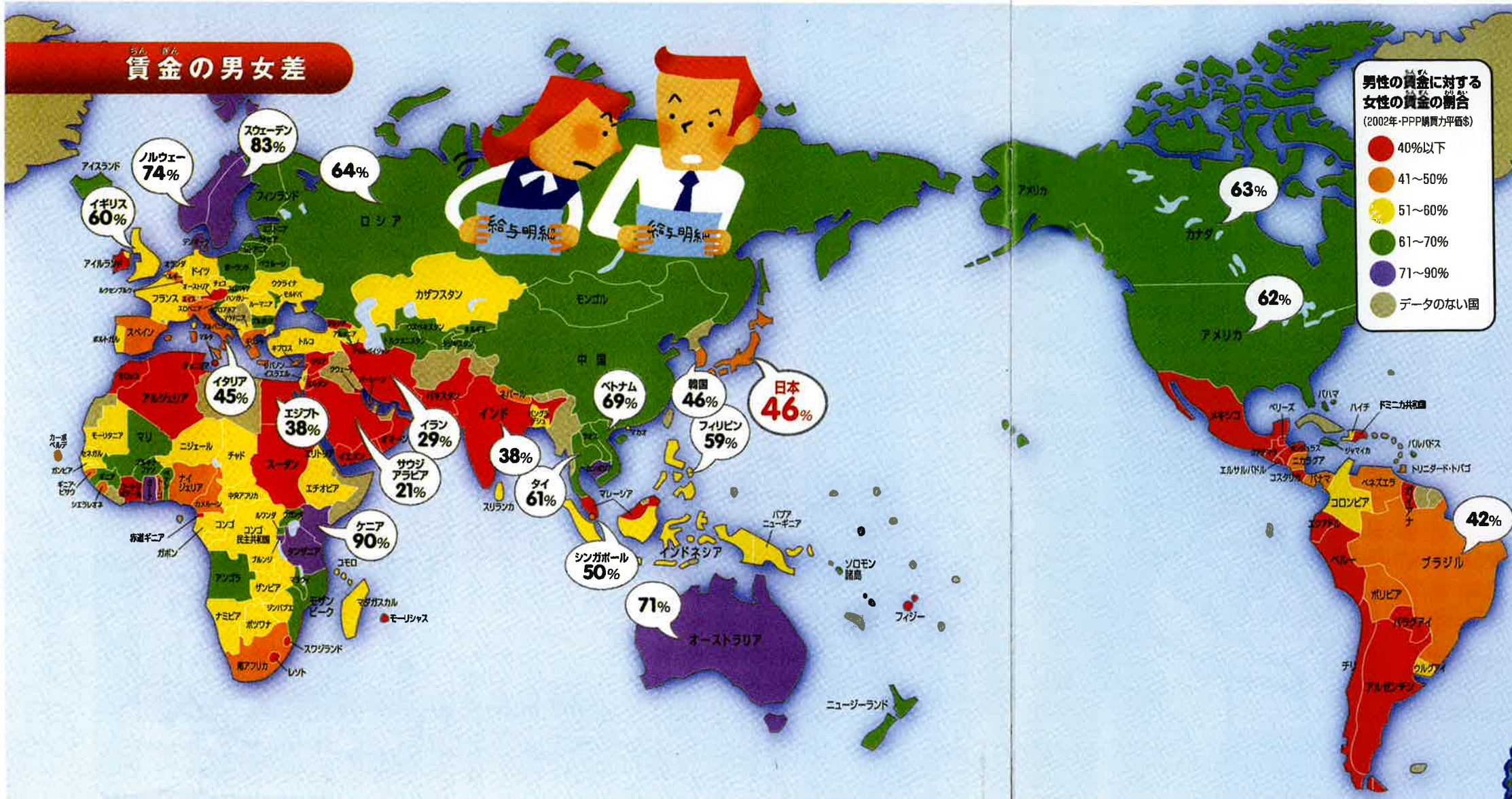
ねっとなあく

特集 生き方のカタチ Part.2

まさか?? ほんと!?!? なるほど!!

静岡県在住外国人は語る 日本の男女共同参画を もうひとつの視点から とらえると





生き方のカタチ★PART2★
まさか??
ほんと!?
なるほど!!

多忙な日常生活に埋没して生きていこうと見えにくいものがあるのではないかと...
 そこで今回は
 静岡県在住の外国人の方々に
 各国の制度・慣習や暮らしぶり
 そして 日本での生活について
 率直に印象を語っていただきました

静岡県在住外国人は語る
 日本の男女共同参画を
 もっとうつの視点から
 NETWORK



「結婚」
 「家庭生活」
 「老後」
 「労働」
 「女性の地位と役割」
 誰もが抱えている身近な問題はかりです

9人のインタビュー特集をお読みいただく前に、まず、上の図をご覧ください。

これは、「ジエンダーの世界地図」(藤田千枝・編/2004年11月刊・大月書店・1800円/転載許諾済み)に掲載されている、賃金の男女差の国際比較を公表したものです。(以下は、同書による図表の解説です)

女性の賃金は、スウェーデンがもっとも男女差が小さくて、次に北欧、オーストラリアが続く。世界では年々、格差が小さくなっていくが、なかなか同じにはならない。

日本と韓国は同じ46%。韓国は日本より男女差が大きかったが、ついに日本に追いついてしまった。
 日本の男女差は、何年も縮まらないうままである。

「女性差別をやめる」という法律があるのに、なぜ賃金に差があるのだろうか。女性労働者が多い仕事の賃金が安いとか、パートで働く人が多いなどが考えられる。また、女性で会社の役職についている人が少ないということもある。

パート労働者の割合は、他の国でも女性が多い。1996年の国連世界調査報告によると、オランダがもっとも多い。しかし、オランダでは「ワークシェアリング」という形で仕事を分け合い、身分も保障する方法が取られている。

たとえば、子育てに忙しい時に短時間働き、また正社員にもとることができる。また、同じ仕事をすれば正社員もパートも同じ賃金をもらえるしくみになっている。
 日本ではパート従業員の多くは正社員より時給が低く、保険・休暇・年金などの権利もほとんどない。また、ある金額をこえると税金がかかるので、休んで収入をおさえる人もいる。

★9人のインタビュー記事は、次ページから始まります

15年かけて男女平等を実現

●マーク・クーストリーさん(オーストラリア)●

個人の権利を尊重する社会へ

員時代、マークさんのボスは女性だった。女性のボスのほうが仕事には厳しいと感じる。しかし、現在の社会システムは、徐々にでき上がったものであり、15年近くかかったと感じる。親の世代は、やはり女性は差別されていたと感じる。

【老後】

65歳から基礎年金(Pension)が国から出る。さらに就労期間中の掛け金に応じて、年金(Super-Annuity)が加算される。65歳のリタイアまでは、所属は変わるが、正社員として働ける。子供とは別居。

●日本の社会と人について

日本人は親切だが、民族差別や偏見がある。例えば、家を借りる時、外国人には厳しい。長時間働かざる。もう少し家族と過ごす時間を増やしたほうが良いと思う。日本に来て文化的に困った事はないが、歩道がないこと、庭が狭いことはつらい。

●大切にしていること

人生で一番大切なのは、家族と過ごす時間というマークさんと過ぐす時時間というマークさん。子供が生まれた時が人生で最も感動したことである。メルボルンに家族のための家を建てる事が夢。



プロフィール

Mark Coustley

男性・30代／オーストラリア・メルボルン／日本人の妻と一男一女／英会話講師(来日前は会社員・シニュージシャン)／滞日5年
<http://www.atartillycar.com>

●お国の事情

【結婚】

結婚は自分たちが幸せであれば良いと考え、親の同意を得ずに自由に行われる。また、事実婚がとても多い。そのため、婚外子も多く、差別も

ない。男女とも30代前半に結婚し、出生率も1.77と、上昇し始めている。一方、子供がいても離婚を躊躇しない。愛のない夫婦にどうして、愛情豊かな子供が育つかという考えである。そこには、子供の人権を尊重するだけでなく、両親の人生も大事にするべきという根底がある。離婚の際は財産を折半し、養育費を支払うことが義務付けられている。また、シングルマザーだけでなく、ファザーにも国の支援があるので、離婚がしやすい。

【家庭生活】

平均的なサラリーマンの月収は20万円。物価は安い、が所得税が20・25%、消費税10%と、高福祉高負担政策のため、都市生活者にとって生活は楽ではない。特に都会で家を持つことは大変である上、家賃も高い。

一方、義務教育にかかる費用や医療費は無料。国籍が無くても出産費は無料。昨年から少子化対策として、それまでは8万円であった国からの

出産祝い金が30万円になるなど、政府も少子化対策に努めている。家事・育児は、共働きや育児中の場合、夫婦で共にやる。マークさんも朝5時にキッチンに立ち子供のミルクを作り、おしめ換え、ゴミだし、洗濯物干し、掃除、子供の入浴などを自然にやる。男女は平等だから、手が空いている方がやるのは当然だと思っている。

【女性の地位と役割】

1982年に内閣府に「女性の地位局」ができた。憲法に男女平等条項はないが、差別からの自由は、基本的人権のひとつと解釈されている。1983年「女子差別撤廃条約」を批准したこと、1984年、性差別禁止法が制定された。以後、雇用機会の均等に係る諸法律が制定され、性差別禁止法とともに男女平等法制を構成している。

そのため、昇進の機会も均等であり、キャリア重視で仕事ができれば、性別は一切関係がない。ちなみに会社

ちよっぴりリラックスした生き方を

● ジョゼ・アイレス・ファイリーヨさん
ホオシヤ・シルビオ・ジュニオールさん (ブラジル) ●

千年を超す歴史にもっと誇りを



プロフィール

Jose Ayres Filho

男性・30代／ブラジル・ペロオリゾンテ市(100万人都市)／ブラジル人の妻と子ども一人／ブラジル人学校社会科教員(来日前も同)／滞日1年半

Silvio de Oliveira Roha Junior

男性・20代／ブラジル・ペロオリゾンテ市(100万人都市)／独身／ブラジル人学校体育科教員・来日前はスポーツジムトレーナー／滞日1年半

●お国の事情

【結婚】
民主主義で、基本的には自分で相手を捜す。ただし、社会的階級があり、それを飛び越えて結婚することはない。結婚後は親と別居するのが普通。

【家庭生活】

30〜40年前は、以前の日本のように男性が外で働き、女性は家に居るのが普通だったがここ数年変化してきた。結婚後も共働きの家庭が増え、男性中心主義は終わりに近づいている。しかし日本と違い、男性の意識は仕事より家庭、何よりも家族が大事。介護などの必要がなければ、親とは別居。83歳になるホオシヤさんの祖母は、今でも一人で暮らしている。

【労働】

1930年頃、労働基準法が整備され、最低賃金や有給休暇、残業割増料金などが保証された。女性の賃金も数年前に男女平等が保証された。近年医者や弁護士などに、女性の進

出が目覚ましい。離婚増加理由のひとつは、宗教的(カトリック)に離婚が認められず、良くないこととされていたが、宗教以外の知識や情報が増え、離婚の認知度が上がったこと、女性の自立が挙げられる。その二つの要素が合わさり、最近では熟年離婚も増えている。

●日本の社会と人について

一番驚いたのは、アメリカ文化の影響が大きく、評価が高い。逆にブラジルの評価は低い。アメリカの歴史はたかだか二百年、それに比べ日本は千年を超す歴史があり、長く美しい文化がある。そのことに誇りを持って欲しい。しかし伝統から切り離され、

若者は「日本人」と言っより、「アメリカ人」になろうとしているようだ。アメリカ人は日本に爆弾を落とした国、なぜそんなに好きなのか? 逆に本当に好きなのかと思える時もある。ブラジルは移民を大量に受け入れ、

日本の力になってきた。

日本の良いところは、災害対策が良く施される。また車の運転マナーが良い。各国への経済支援もしてくれている。

悪いところは、電車内など老人に席を譲らず優しくしない。もっとキャンペーンなどをすると良いと思う。また、自殺者が多いのも問題だ。自殺と関連するかもしれないが、働き方は集中してプロ的。完璧なのは良いが、事故が無いように訓練され、決まりに従っている。それは精神的には大変ではないか。少し違つことで混乱している。ブラジル人はちよっぴりリラックスして仕事をしている。尼崎JR脱線事故は、ブラジル本国でも大々的に報道され、ほとんどのブラジル人が知っている。なぜ他国の事故が大きく取り上げられたかという、事故が「多くの人命より、一分早くすることが大事」的な姿勢が要因で引き起こされたことが、我々には「衝撃」であったから。

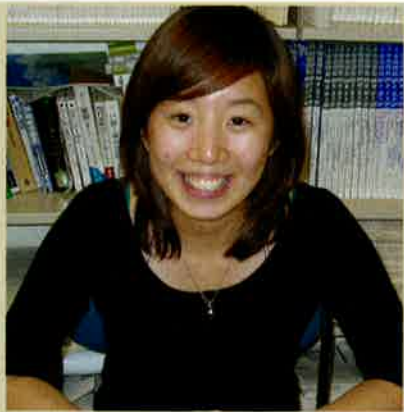
●大切にしていること

なによりもまず、家族、子ども、妻、友達が大事。そして平穏な生活。お互いが「愛」をもって、分かり合つことが大事である。それから、喜んで仕事をする事。

家事・育児とも夫婦で同じくらい

●劉欣(リュウ・キン)さん(中国)

親の面倒は子どもがみたがる



プロフィール

劉欣

女性・20代／中国・青島／独身
／学生／滞日5年

●お国の事情

【結婚】

恋愛結婚が基本だが、現在はお見合い結婚が流行。条件のいい人を探するため、相談所が人気。親の同意がなくても結婚できるが、認めてもらいたいという気持ちは強い。結婚式は

親がお金をかけるので豪華。晩婚を政府が進めているため、都会では結婚が遅め。結婚後は親と別居。結婚後に住む場所がないと女性は結婚したくないという事情も。そのため、親がマンション代などを負担する。

【家庭生活】

76年から二人っ子政策が始まり、親は子どもに期待している。そのため都会では、子どもに勉強だけでなく、芸術関係の習い事などもさせる。その結果、子どもの教育費などが高くなり、一人の稼ぎだけでは生活が成り立たないことも、共働きが多い理由のひとつ。家事・育児とも夫婦協力して同じくらいやる。離婚は多くなく、親の世代では恥ずかしいこと。非婚者も周りにはいない。婚外子は法律で禁止されており、教育などを受けられない。同棲も違法。

【老後】

親の面倒は子どもがみたがる。老人ホームはあるが、お金のある人や、

子どもがいない人、子どもが面倒をみてくれない人が入るところ。そのため、老人ホームに入ると子育てに失敗したという笑われることも。

【労働】

通常の勤務は8時から17時まで。残業という言葉に対応するものがない。残業はあまりない。定年は男性が60歳、女性が50歳。定年後は、企業から退職金がわりに、給料より多いお金を月々もらう。

【女性の地位と役割】

家計の管理は家庭によってさまざま。どちらが多いとはいえない。社会的地位に関しては、親の世代では男性が上、女性が下という考えがある。男性のほうが出世しやすい状況。しかし、女性にも働く意思を持っている人が多い。

●日本の社会と人について

はじめのイメージは、「怖い」「中国人のことを嫌っている」。しかし

実際は、「人が優しい」と感じた。

驚いたことは、中国では違法な風俗店や競馬・パチンコといった賭け事があること。そして、政治に対する批判などをテレビで言っていること。メディアを国が握っているため、中国では規制されている。

日本は、街がきれい。そして、「コンビニ」があり、とても便利で豊か。

そして、日本人はまじめで礼儀正しい。しかし、歴史についてきちんと考えてほしいと思う。

日本人は働きすぎ。中国では過労死は考えられないこと。いつもあせっているように見え、楽しく働いている人がいない印象。しかし、サービスのレベルの高さには感心した。

日本の親子関係は薄い。正月に家に帰らない、普段から電話をし合わないなどは考えられない。きょうだいも仲がよさそうには見えない。親子で干渉し合わないという感じ。

●大切にしていること

家族を一番大切に思っています。最初日本に来たときは、日本語もわからず、買い物をするだけでも大変で、辛い思いをしました。しかし、家族のためなら我慢できると思い、がんばってきました。そして、私は母を尊敬しています。